

令和8年度 学力向上に関する調査の結果について

1 各教科についての考察

本校の平均正答率は、国語・算数ともに、愛媛県平均、全国平均とほぼ同じであった。基礎的・基本的な知識及び技能は概ね定着している。一方で、思考力・判断力・表現力を必要とする問題や、複数の情報を関連付けて考える問題では課題が見られた。

2 質問紙調査結果

○ 家庭学習について

1日1時間以上の家庭学習ができていると答えた児童の割合が約70%だった。

○ SNSや動画視聴の時間について

平日のSNSの利用や動画視聴の時間が2時間を超える児童の割合が61.2%だった。これは全国・愛媛県の割合を上回っている。4時間以上であると答えた児童の割合は23.4%だった。

○ 読書について

平日30分以上読書をしている児童は21.6%と、全国平均を大きく下回っていた。また、普段全く読書をしないと回答した児童の割合が34.2%だった。

○ 教科について

「教科(国語・算数)の勉強は好きですか」という質問に「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した割合は、国語も算数もどちらも全国を下回る結果だった。特に算数は、全国に対して大きく下回っていた。

「教科の授業の内容はよくわかりますか」という質問に「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した児童の割合は、国語では全国とほぼ同じであったが、算数は全国を大きく下回っていた。

3 今後の取組

平均正答率は全国とほぼ同じ結果であったことから、今後も基礎的・基本的な内容を確実に定着させられるよう、「算数タイム」等の取組を継続していきます。また、学習したことを日常生活と関連付けるなど、教科等横断的な視点をもって授業改善を図り、「できた」「分かった」と実感できる場を増やし、教科に対する興味・関心を高めていきます。学習したことが確実に定着するように家庭での学習も充実できるよう、ご協力をお願いいたします。

SNSや動画視聴に多くの時間を費やす児童が過半数を占める一方で、読書習慣が身に付いている児童は少ないことが分かりました。家庭での過ごし方がデジタルメディア中心となっている実態がうかがえます。学級全員で図書室に行く回数を増やしたり、並行読書等を取り入れ、学習に関連した本を選んだりする機会を増やしていくなど、読書活動の充実を図る活動を通して、読書習慣の定着を図ったり、EILS読解力検定を積極的に活用したりすることで読解力の向上につなげていきたいと考えます。ご家庭におかれましても、読書や家庭学習、メディアとの付き合い方について、お子様と一緒に考えていただけたらと思います。

今回の調査結果を一つの指標として捉え、児童一人一人の学力の向上と、豊かな学びにつながる教育活動の充実に努めてまいります。